

野菜の展望

今月は本格的な秋冬野菜の出荷時期を迎えます。今年度に於いては幸いにも台風の大きな被害は現状ありませんが、品目によっては未曾有の酷暑の影響大きく、作柄の良くない品目も散見されます。特に夏秋までの産地では被害大きく、現在出荷をしている産地では、熱波による被害が報告されています。ただし秋冬作産地への移行後は秋冬露地作を中心に、安定かつ潤沢な入荷が見込まれています。根菜類の大根は石川産から中旬以降千葉産中心へと切り替わります。加賀野菜のひとつでもある、打木源助大根は連日入荷の予定です。人参は上旬まで北海道産中心に富山産の出回りとなりますが、それ以降は石川・岐阜産が入荷します。各産地共に、播種期の猛暑の影響から、作柄悪く、年内は少なめの入荷見込みです。年内小かぶは金沢市砂丘地産が個人物主力にゆるやかに増加する見込みです。蓮根・甘藷については石川産を中心に茨城産の入荷となり、甘藷は大玉傾向となります。里芋については福井産を中心に各産地からの出回りがあり、石川産も少量ながら入荷があります。北陸地区は平年並みの肥大と見られます。

果菜類では、胡瓜が上旬まで石川・群馬・高知産、中旬より高知産中心に切り替わり、下旬より愛知産が加わります。南瓜は北海道産が中旬まで、以降はメキシコ産、下旬より石川産の抑制物の入荷となりますが、震災の影響で少なくなる見込みです。輸入については後半からニューカレドニア産の入荷があります。茄子は高知産主体で、長茄子は熊本・福岡産で全体的に安定した入荷が見込まれます。トマトは、石川・愛知産ですが、残暑の影響が残り不安定な入荷となる見込みで、石川産は徐々に減少に向かいます。ミニトマトは入荷の不安定さが残りますが、中旬以降は愛知産主体に順調な入荷となる見込みです。ピーマンは高知産主体に鹿児島産の入荷で、比較的安定した入荷が続くと思われま。

葉茎菜類の白菜は石川・茨城産の入荷となります。キャベツは愛知主体に石川・茨城からの出回りがあります。葱は北海道産の束物、長野・埼玉産の入荷があり、石川産は酷暑の影響から平年より少ない入荷が見込まれます。小松菜は石川産を中心に福岡・関東産の入荷です。ブロッコリーは石川産を中心に長崎等の九州産の入荷となります。石川産 JA 加賀・白山は順調な入荷見込みですが、JA のとは豪雨災害により大幅な減少となります。

菌茸類の椎茸は石川産を主体に徳島・富山・兵庫等の菌床物と下旬より石川産原木物の入荷で、需要期を迎えて数量は増量となります。えのき・なめこ・しめじ・舞茸等のきのこ類については、各農協の系統物や企業物（ホクト・雪国・ミスズライフ）を含めて、生産コストの増大と、再生産価格の維持の為入荷の少ない状況が続きそうです。季節物の松茸は地物の石川産が中旬でほぼ終了すると見込まれ、同様に中国産も中旬にて終了予定となっています。アメリカ産については例年通りで12月までの入荷が予定されています。

土物類では馬鈴薯・メークインが北海道産中心の出回りとなりますが、前年度に見られた様な腐敗・発芽トラブルの発生も抑えられ、安定した品質での順調な入荷が見込まれます。玉葱については北海道産の入荷ですが、小玉傾向で平年よりやや出荷量が減る見込みです。長芋は北海道・青森産の新物の入荷となります。不作であった昨年に比べると平年並みの入荷が見込まれます。牛蒡は青森産中心の入荷を予定しています。生姜は高知・中国産に加え石川産の新生姜の入荷があります。

今月は各産地より秋冬野菜が潤沢に出回る月となります。各種のイベントに合わせた企画立案による販売拡大にご協力をお願いいたします。

《取締役野菜担当営業副本部長 嶋田 亮》

果実の展望

朝晩の冷え込みが一段と厳しくなり、秋冬果実は本格的な出回りシーズンを迎えます。

今月の果実は主力品目であるみかんが極早生みかんから早生みかんへと切り替わる時期となり、福岡・長崎・和歌山・愛媛等の各産地から入荷があります。今年は裏年にあたり、出荷量は前年より少ないです。玉流れについてはL玉中心になると予想されます。

柿については能登町・かほく市を中心に金沢近郊の内川・浅川地区等から、さわし柿・渋柿・甘柿の入荷、岐阜・奈良産の富有柿の入荷予定となります。

りんごはふじの出荷が本格化する時期に入りますが、他にジョナゴールド・王林・紅玉といった品種も加わり、青森・長野・山形等の各産地からの入荷となります。

ブドウ類は長野産の露地作やシャインマスカット、岡山産の紫苑・コールマン等の入荷があり、入荷量については前年よりやや減少すると予想されます。

瓜類では静岡産のマスクメロンと高知産のアールスメロン等が出回ります。作付面積の減少と高温の影響から、入荷は減少となります。

苺は愛知産を中心として、中旬からの入荷になると予想されます。

洋梨は山形産のラ・フランス中心の入荷で、14玉・16玉の小玉中心の玉流れとなります。

輸入果実のバナナはフィリピン産と南米産の入荷で、各産地ともに順調な入荷が予想されます。価格については前年よりやや高値にて推移するものと思われます。オレンジはオーストラリア産が中心でネーブル種、バレンシア種の取り扱いで72玉、88玉が中心となります。グレープフルーツはメキシコ産の入荷です。レモンはチリ産中心の販売で、次のアメリカ産は12月中を予定しています。パインはフィリピン産のゴールデンパイン・スウィーティオ種の順調な入荷が予想されます。キウイフルーツは、ニュージーランド産グリーンは継続販売、ゴールドは中旬に終売となります。その他にパイアヤ・アボカド・マンゴー・ザクロ・カルフォルニア産シードレス（種無）等が順調に入荷します。

以上、今月も尚一層の拡販を宜しくお願い致します。

《取締役果実担当営業副本部長 荒木 智》